

(別紙5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日	平成19年12月26日
調査実施の時間	開始 10時 ~ 終了15時

訪問先事業所名 (都道府県)	夢の森 _____ (福島県)
-------------------	-----------------------

評価調査員の氏名	氏名 鹿島丈夫
	氏名 熊谷まゆみ
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 波多野 文男
	ヒアリングを行った 職員1名

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	772500344
法人名	医療法人 社団 日新会
事業所名	グループホーム夢の森
所在地	福島県喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5 (電話) 0241 - 28 - 5855
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成19年12月26日

【情報提供票より】 ( 19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月16日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算7.5

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要 ( 11月1日)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	3	要介護4	2		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83.3歳	最低	73歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	入澤病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

集落からは若干離れた環境に立地し、近隣との交流、地域の一員となるための条件は恵まれていないが、運営推進会議の開催などを通じ徐々に交流が始まっている。また、日々の生活は少人数で穏やかに営まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念を基に介護目標が設定され、理念の実践に向けて前進していた。外部評価で指摘された居間や廊下の手すりが設置されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で3日間かけて自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	グループホームへの理解を深めてもらうようテーマを設けて、運営推進会議を開催し、地域との交流が少しずつ広がっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設けたり、家族の来訪時要望等を聞くよう心がけているが、要望や苦情はほとんどないとのことでした。要望や苦情を引き出す工夫が求められます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治組織に加入し、交流が広がりつつありますが、日常生活レベルでの連携となると、一層の努力が求められます。

## 2. 調査報告書

主任調査員氏名 鹿島丈夫 / 同行調査員氏名 熊谷まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの運営理念を基により具体的な介護目標を設定し、その中で地域社会との交流が強調されていた。	○	現場の職員が運営理念を検討し、見直すことも重要であり、職員集団での見直しを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃から運営理念について話し合っているとのことであったが、十分意識化はされていなかった。	○	<u>日々の業務で運営理念が常に意識されることを期待します。</u>
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治組織に加入し、会費も支払、回覧も回ってきている。今年度は地域の運動会にも参加した。		集落から離れた場所に立地し、地域との付き合いがしにくいのが、運営推進会議をきっかけに地域との付き合いが始まっているので、これらの付き合いをより拡大することを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は法人に報告され、報告に対する法人の見解が示され、運営推進会議にも報告され、その後全職員が集まって話し合いを持っている。また自己評価も全職員で話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、議事録も作成され積み重ねが図られていた。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払は持参を原則として、家族の訪問を促し、利用者の生活の様子を伝えている。預かり金の出納簿も毎月家族に渡していた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の来訪時に要望などを聞くように心がけているが、要望や苦情はほとんどないとの事であった。		何もかもお任せ的で要望や苦情が出にくい状況は理解できますが、要望などを引き出す工夫を期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ2年間は職員の退職も異動もなく、利用者の生活の安定には好ましい状況であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホーム職員の勉強会が2ヶ月に1度開催され、夜勤者を除いた全ての職員が参加している。		研修テーマの設定などで、管理者の役割が大きいと思わます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、学習や意見交換を行っている。ただ、参加がほとんど管理者だけで、多くの職員が他法人のグループホームの職員と交流する機会は少なかった。		グループホーム連絡協議会等に職員誰もが参加できるような工夫を期待します。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と一緒に調理をしたり、昔の話を聞いたりする中で、利用者から学ぶことも多いとの事であった。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分のペースで生活し、職員もそれを見守るような生活のリズムになっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議や申し送り等で話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の介護計画の見直しだけでなく状況の変化に応じた見直しも行われていた。	○	介護計画が日々の業務の中心として、日常的に活用する工夫も期待します。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者ごとにそれぞれのかかりつけの医療機関に職員が同行して受診していた。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期への対応は、いずれ求められて来るとは考えているが、看護婦の常駐など体制を整えないと難しいと思っているとの事であった。</p>	○	<p>家族からは終末期まで見て欲しいとの声があるとの事なので、どうすればできるのか、職員間での話し合い、法人との話し合いなど前向きな検討を期待します。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケースファイルなどの書棚はカーテンで隠し、個人情報の保管に注意を払っていた。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の側で準備しているプログラムはあるが、それに参加するかどうかは利用者の判断なので、自分で選択した暮らし方をしていた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や後片付けをしたり、楽しく食事ができるよう雰囲気作りに配慮しているとの事であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が火、木、土の週3回、時間帯は午後の2時間程度と固定され、一人ひとりの希望で入浴を楽しめる体制にはなっていない。利用者からは特に希望は出されていないとの事であった。	○	職員としても、一人ひとりの希望に応じて入浴ができるようにしたいとの意向があるので、どうすれば可能か具体的な検討を期待します。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	調理や園芸、散歩、清掃など利用者それぞれが役割を持って生活できるよう支援しているとの事であった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	職員が同行しての病院受診の際、買い物や自宅訪問など戸外に出る努力はされていた。ただ、加齢によるADLの低下や認知能力の低下により外出する機会が減ってきているとの事であった。		利用者の加齢に伴って様々な機能の低下はやむを得ない面がありますが、低下しても外出できる工夫を期待します。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかかっていた。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を受け、年2回の消防訓練を実施している。本年度初めて地域の消防団の防災チェックを受けた。		非難訓練で地域の参加も得られるよう、地域に働きかけることを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取等はチェック表で記録していた。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懸案であった居間や廊下の手すりが付けられ安全面で向上していた。また、居間の掲示物なども、月1回変えていると説明を受けた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた馴染みの家具などをと家族に働きかけているが、なかなか理解していただけないとの説明を受けた。		生活の場、これまでの生活の延長の場であることを理解してもらうための、これまで以上の働きかけを期待します。

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 夢の森

記入担当者名 管理者 波多野 文男

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。